

スプートニク 5 号 — ロシアのコロナ事情

世界初の新型コロナウイルスワクチンに期待がかかる。

有限責任会社ミツバ ルス

社長 伊藤正直

1 番が好きなロシア人気質？

ロシアでは2月1日に最初の新型コロナウイルス感染者が発表された。だが、3月1日までは増加はなく、極東での中国からの入国を制限するなど、情報収集と対策はさすがロシアと安心していった。2月下旬、モスクワに出張したが、空港でマスクをしていたのは小集団で固まっている中国人がほとんどだった。それが、3月27日には大統領令が発令され、1週間の有給での非労働日として自宅待機／外出禁止となった。その後、4月末までの制限がさらに5月9日まで延長となり、生活環境が激変した。しかも、4月に入ると一気に感染者が増え(図)、世界のトップ集団に加わってしまった。後付けでしかないが、1週間でも発令が早かったらと思

うと残念だ。常に米国との横並びが好きで何でも1番が好きなロシア人気質が、ここでも出てしまったようだ。

我慢を強いられる生活

追加規制は地域ごとに様々で、モスクワなどの大都市では許可証がないと運転もできず、地下鉄にも乗れず、破れば罰金や逮捕もある徹底ぶりだ(7月から緩和)。わが町マリエル共和国ヴォルシスク市でもマスクがなく外出規制で4月以降、私も在宅勤務を余儀なくされ近所での買物と散歩のみ我慢を強いられている。

非労働日のはずが近隣の他社は平常並みに操業を続けていると分かり確認をとったら、行政の許可を得て防疫体制を整えれば医療関係や自動車産業など特定の業務・製造は許可され操

業できると判明。入館時の体温管理(測定)にアルコール消毒、マスク・手袋の着用と1.5メートル以上間隔を空けての作業などが求められるとのことだった。ただ、製造ラインのレイアウト上、1.5メートル以上間隔を空けるのは不可能だし、非接触型体温計はモスクワでないと入手困難。マスクと消毒液もわが町では品切れで入荷の見込みがなかったため、事前検査にパスできる自信がなく操業は断念した。実際には事前検査はなく(体制も人員も不足してい

図 ロシアでの新型コロナウイルス感染推移



出所：新型コロナウイルス (COVID-19) 統計情報
(データ出典元：CDC・WHO・ECDC・ウィキペディア・The New York Times ほか)